

大学院時代の安達さん(右端)=1988年  
(九州大提供)



高熱を押して  
米国の会議に  
参加し、フォ  
レストという  
研究者と出会  
った。誘われ  
て訪れた大学  
は日本とは違  
つた。驚いた  
設備があつ  
た。衝撃を受  
け、「いつか米  
国で研究した  
い」と願つた。

## 物理から有機材料に転身

99年、念願がかなう。フ  
ォレスト氏は、当時プリン  
ストン大の教授。3年間、  
教授の下で研究した。  
想像を絶する厳しさだつ  
た。1週間徹夜で取つたテ  
ーブルでも、すんなりとは通  
らない。けんかのような議  
論の繰り返し。論文の草稿  
を渡すと翌日、追加データ  
を要求する赤ペンのチェック  
が大量に付いて戻つてき  
た。「そういう状態でも楽  
しむ人しか残れなかつた」  
フォレスト氏らはそのこ  
ろ、発光効率が高い第2世  
代の有機ELを開発した。  
安達さんも関わつたが、  
ベンチャーを立ち上げて実  
用化させる過程を目の當  
りにし、米国の底力を感じ  
た。

## サイエンスる

次世代有機ELを開発した九州大教授  
安達 千波矢さん ②

有機EL開発に取り組む  
安達千波矢さんは高校時  
代、「数式は美しい」と物  
理に魅せられ、中央大物理  
学科に進んだ。だが大学3  
年の時に、外部の研究者の  
講義を聴き、光を出す有機  
物に出合う。

博士号取得後、リコーに  
勤務。1991年、40度の  
高熱を押して  
米国の会議に  
参加し、フォ  
レストという  
研究者と出会  
った。誘われ  
て訪れた大学  
は日本とは違  
つた。驚いた  
設備があつ  
た。衝撃を受  
け、「いつか米  
国で研究した  
い」と願つた。

難しそうだが、やりがい

はありそうだ。「これだ」と  
決め、九州大大学院の有  
機材料研究室に進学。蛍光  
材料を使う有機ELを研究  
した。

99年、念願がかなう。フ  
ォレスト氏は、当時プリン  
ストン大の教授。3年間、  
教授の下で研究した。

想像を絶する厳しさだつ  
た。1週間徹夜で取つたテ  
ーブルでも、すんなりとは通  
らない。けんかのような議  
論の繰り返し。論文の草稿  
を渡すと翌日、追加データ  
を要求する赤ペンのチェック  
が大量に付いて戻つてき  
た。「そういう状態でも楽  
しむ人しか残れなかつた」  
フォレスト氏らはそのこ  
ろ、発光効率が高い第2世  
代の有機ELを開発した。

安達さんも関わつたが、

ベンチャーを立ち上げて実  
用化させる過程を目の當  
りにし、米国の底力を感じ  
た。